

こむねび

第 50 号

理事長からのメッセージ

今年6月、新たにタイからの技能実習生3名を迎え入れました。既に来日している2名を含め計5名となり、一つのコミュニティが生まれています。日本の介護現場は今後間違いなくグローバル化していくという見通しのもと、手探りで始めた技能実習制度も、ようやく3年経過しようとしています。

この間、現場でのOJT、教員による日本語レッスン、異文化を理解する研修実施、生活面のフォロー等々努力して参りました。事業所側も受入れ態勢の整備に相当な覚悟が必要なことを年々痛感しています。

実習生自身、来日時の日本語力・来日の目的・今後の目標もさまざまです。身体もそして心も疲れる介護の仕事を選んだ実習生達を出来る限りサポートしたいと思いますし、信頼され、任されれば仕事も楽しくなるのは日本人と変わらないはず。

多国籍の文化をむしろ強味として、活気ある職場作りができればと願っております。

理事長 大屋敷 幸志

地域の居場所 さっちゃんちについて

さっちゃんちは、山本幸子（さっちゃん）さんが、2019年5月に98歳で本人の望み通り自宅から旅立った場所です。家屋は宮大工もしていた棟梁が随所に技を盛り込んで建築し、手入れしてきた純和風建築です。地域の居場所は2016年6月から始めた英会話サークルが起源で始まりました。2020年8月からは、火曜日と木曜日を自由利用日とし、9時から17時まで開けています。今では定期的な集まりや出店をする方も増え、平均すると自由利用日は1日7～10人くらい、朝市は7組前後の出店者、30人を超えるお客様が訪れています。

自由利用日にお客様がお越しになる目的の一つに、手仕事の講座「チクチク会」があります。これは、自由利用日設置時からの留守番役スタッフが、お客様の希望する内容や時間に合わせて随時開催している講座です。「えー。こんなに難しいと思わなかった～」と時には見本の作品に潜んでいた熟練の技に驚きながらも、スタッフが一人ひとりに合わせて丁寧に教えてくれるおかげで受講生たちは次々に作品を仕上げていきます。「できた！」と喜ぶ目は活力溢れる純真な少女のようで、作品を通じて互いを認め合う温かな時間が流れます。

地域包括支援センターふれあいの泉とも、2019年6月から共催として「暮らしのことはじめ」という座談会形式の講座を月1回の頻度で始めました。講座では近隣で活動する市民活動団体や民間事業者、行政の方々にお越しいただき、各回のテーマに沿って参加者と相互に理解を深められるように意識しています。この方式により、参加者がテーマを自分に置きかえ、自身の暮らしを見つめ直すキッカケとしたり、関係機関とコンタクトできるようになります。また、参加者がその後もテーマに関して、他の地域住民と共有していくといったオピニオンリーダー（牽引役）に育てていく目線も大事にしています。今後も地域住民と共に活動を続けていきます。



▲さっちゃんち外観

▼活動風景



▲活動風景

▼暮らしのことはじめ



▲暮らしのことはじめ

2022
12.1No.
50

1	理事長からのメッセージ	1	地域の居場所 さっちゃんち について
2	ふれあいの麗寿	2	ふれあいの泉
3	ふれあいの森	3	ふれあいの里
4	元町ケアセンター	4	ふれあいの家みのり
5	鶴嶺西地区地域包括支援センターみどり	5	茅ヶ崎地区地域包括支援センターゆず
6	小出地区地域包括支援センターわかば	6	鎌倉市大船地区地域包括支援センターふれあいの泉
7	令和3年度経営状況の報告	8	認知症ケア推進委員会の取り組み
		8	編集後記

● ふれあいの麗寿

ふれあいの麗寿では、コロナ禍が続く中、感染症対策に基づき実施可能なイベントをこれまで開催してきました。当たり前であった多人数で賑やかに交流することを避ける必要があることから、単位を小さくして、感染対策を実施した職員達が動き、距離を置きながらも楽しんで頂けるイベントを考えて実施しております。そのため、この夏は、スイカ割りをユニット単位で行ったり、エントランスや屋上の外気下で花火を見物したりしました。また、室内に居ても夏を感じて頂けるように職員達が『アロハシャツ』を着用して勤務をしたり、大きなスクリーンに映画を映しておやつを楽しんで頂いたりもしながら入居者様に喜んで頂きました。

9月以降は、作り手が各階を回って目の前で作成するクレープ作りを開催したり、敬老会の祝い膳を提供したりして、季節の味覚等を楽しんで頂いております。

外出を伴うレクリエーションは、今なお実施できずにいますが、入居者様には飲食イベントが好評であることから、ご当地メニューや季節の行事食を例年以上に力を入れ提供させて頂いております。飲食イベントの際も、感染対策として実施前後の消毒や換気、席次の工夫等を行いながら実施することができています。

感染対策継続下での生活が続きますが、一日も早く、入居者様とご家族様が安心して手を触れ合って面会できる日を実現したいと思っております。



● ふれあいの泉

平成19年5月にふれあいの泉を開設し、本年で15周年を迎えることが出来ました。地域の方々や関係各位に支えられた15年でした。

コロナ過で、地域との交流やボランティアさんのご利用者様のふれあい等が難しい状況ではありますが、敷地内でお花を育て観賞したり、皆様でミニトマトを育て収穫する中で季節を感じたり、今年は2年ぶりに白山神社の祭礼で、お神輿が泉に来られました。窓越しからの見学ではありましたが、皆様手を振られ喜んでおられました。9月19日には「敬老会」を開催し、記念式典やお祝い膳で、ご長寿をお祝いしました。午後からは、職員によるレクリエーションも行われ、皆様楽しいひと時を過ごされました。

平成元年に始めた「地域貢献送迎バスモデル事業」も3年目を迎え、コロナ過でも休まず行っています。毎週月曜日に運営していましたが、地域の方々の要望もあり、今年から月曜日・金曜日と週2回に増便し、ご自宅までお送りしています。今後も地域の方々と共生社会を築き地域に根差した施設作りを行って参ります。



ふれあいの森

茅ヶ崎市・寒川町にお住まいのみなさまはこれまでに、「行方不明者の発生」の町内放送を耳にされたことがあるのではないのでしょうか。

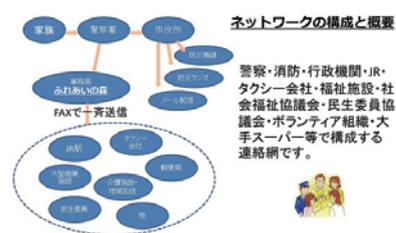
ふれあいの森は、茅ヶ崎市と寒川町からの業務委託により、徘徊する認知症高齢者を早期に発見・保護するための「SOSネットワーク」の事務局を担ってまいりました。警察から行方不明者発生の連絡を受けたのち、茅ヶ崎市役所や寒川町役場などの関係各所に向け情報を発信することであの放送が入る、という流れになっています。みなさまのご協力もあり、放送された行方不明者の多くはその後の身柄保護へとつながっています。

また、行方不明になられた高齢者のなかには、「無事保護されたものの、身元が分からない」という方もいらっしゃいます。当施設では、そういった方を一時的に保護する、いわば駆け込み寺のような役割も同時に果たしております。

認知症高齢者の徘徊は各家庭の備えだけで防ぎきれるものではなく、発覚や発見が遅れば遅れるほど、無事に保護することは困難になります。一人でも多くの行方不明者が無事にご家族のもとへ帰れるようにするためには、市民・町民のみなさまのご協力による早期の発見と保護が不可欠です。わたくしたちはこれからも、SOSネットワークの事務局として、そして一時保護の受け入れ先としてその一翼を担っていくことで、地域社会に貢献できる存在でありたいと考えております。



行政、地域住民、施設、関係機関の協働によるシステム化と運用



ふれあいの里

コロナ禍における暮らしの充実に向けて

「コロナ禍だからこそ」今までとは違う、「里」ならではの「新しい生活様式」を模索し、本年度より日常生活の中でのアクティビティの充実・強化を図り新たな企画をスタートまた、休止していた企画の再始動を致しました。

①『30分体操』

不要不急の外出を控えるなど行動範囲や活動の機会が減少し、衰えの心配な下肢筋力の維持・向上を中心に、体を動かす習慣を目的とした、道具も経験も必要としない、誰でも参加できる体操です。各階の談話スペースで週2回ずつ巡回して、9:30から30分間行っています。ご自身の居住階以外へも…毎日・週6回参加される方もおられます。

②『里山公園便（送迎車）』

直線距離800m程に緑豊かで3密の心配もない散策には打って付けの「県立里山公園」がありますが…入居者にとっては入口まで散歩するともう沢山…と、折角の地域資源を活用出来てきずにいました。車で谷の家（管理施設）等まで送迎し約1時間自由時間を楽しんで頂いています。

③『里Café』&『里ファーム』

サービス休止後遊休空間となっていた旧デイルームと併設の庭を、喫茶店（月～金12:30～15:30）と菜園及び花壇に再生。集いの場・戶外活動施設として活用、1ドリンク100円、天気の良い時には花摘みや野菜の収穫を行っています。

④『行谷シニア体操教室』再始動

包括わかばの声掛けで3年ぶりに地域住民向けのインストラクターによる体操教室が再開、市民交流支援室を提供、まだ入居者との交流開催は見送っていますが、以前の様に地域との交流の場として機能回復を目指しています。



元町ケアセンター

元町ケアセンターは茅ヶ崎駅から徒歩5分。デイサービス・ヘルパー・ケアマネジャーと、3つの事業を行っています。毎月第一水曜日には、朝の地域清掃活動を行っています。

高齢の方、学生、子育て期の方々が多く行き交う近隣道路での作業は、朝の挨拶を多く交わす事が出来ます。また令和4年4月から、自主事業の取組みの一環として「ギター教室」を開催しています。友人、知人の誘いで10名～15名の方々がレッスンを受け、お披露目出来る日に向け頑張っています。

他、卓球台の開放、地域包括支援センターとの共催事業もを行っています。

多くの方々に当センターをご利用頂き、互いを支え合う地域のネットワーク拠点を目指し私達が出来た事を一つひとつ丁寧に行っていききたいと思います。



ふれあいの家みのり

2022 みのり夏祭り大盛況でした!!

今夏、ふれあいの家みのりでは、感染予防に配慮した中で毎年恒例の夏祭りを開催しました。

コロナ禍ではありましたが、利用者の皆さんに夏を感じていただけるよう、職員一同アイデアを出し合い張り切って準備をしました。

駐車場では、焼き鳥の炭火焼・焼きそばコーナーを設けて、ノンアルコールビール・各種ジュースを用意してみのりピアガーデンで雰囲気盛り上げ、デザートはかき氷です。

室内のゲームでは、もれなく全員に景品が貰える射的・金魚すくい・水ヨーヨーすくい・スイカ割りといったアトラクションに皆さんの笑顔があふれる縁日気分を満喫しました。

限られたスペースの中のイベントでしたが、工夫をこらした楽しい夏祭り、利用者の皆さんに季節を感じてもらえた夏祭りだったと思っています。

職員のみみなお疲れ様でしたー!!



● 鶴嶺西地区地域包括支援センターみどり

包括支援センターみどりでは感染症対策を万全に講じ、事業を予定通り実施しております。

上半期には認知症予防のための「脳活クラブ」「みどりカフェ」や詐欺・虐待等の勉強会を実施しました。下半期は地域の皆様の居場所となる新たな「グリーン倶楽部」、昨年大人気のリクエストによる「ポールウォーキング」を複数回開催します。「家族介護教室」では権利擁護の観点から介護保険と成年後見制度の理解を深める講座や、ACP（人生会議）講座により、皆様自身の“終い方”について話し合います。また地域のケアマネジャー、民生委員、ボランティアセンターの方々による地域課題から市への提言に繋げるための地域ケア会議を開催予定です。今後も地域の方々の「活動」と「参加」の場を提供させていただきます。



● 茅ヶ崎地区地域包括支援センターゆず

茅ヶ崎地区地域包括支援センターゆずでは今年度、茅ヶ崎地区内の地域住民や訪問看護ステーション看護師、薬局薬剤師の皆様と一緒に、地域住民向けの認知症サポーター養成講座を9月に開催いたしました。当日は認知症サポーターになるための講義と、今年4月から茅ヶ崎市内でゴミ袋が有料化され、捨て方が変わったことに関する寸劇を行いました。ナレーションや、実際の配役に市民の方や専門職が入ってもらい実演しました。終了後のアンケートでも大変好評をいただき、「劇だと分かりやすい」とのお声もいただきました。たとえ認知症であっても安心して生活が出来る茅ヶ崎地区になるように、地域の皆様と協力して認知症ケアを地域ぐるみで推進していければと考えております。今後とも、地域の皆様が安心して相談できるセンター運営を目指してまいります。



● 小出地区地域包括支援センターわかば

包括支援センターわかばの小出地区においても、コロナ禍の最初の緊急事態宣言では街から人影が消え、訪問も必要最小限、なるべくご利用者様に接近せず、声も潜めてという状況でした。あべのマスクと一緒に、「わかば通信」や市が発行した「いつまでもあなたらしく」をポストインしながら行き来する間に、偶然地域の方に再会すると本当に嬉しかったのを覚えています。

小出コミセン祭りや、里山公園のレインボーフェスティバルなどの大きなイベントは当然ですが、こじんまりと開催していた地域のサロンや老人会、ふれあいの里で開催していた行谷シニア体操教室やふれあいカフェも休止となってしまいました。そんな中で、地区社協主催の「楽々ひろば」と湘南ライフタウンB地区の健康体操教室は、「感染予防も大事だけど、フレイル予防はもっと大切！」という地域の皆様の熱意で、市の介護予防事業再開を待たずに、2020年の秋には、感染対策を講じながら再開しました。

この4月からは老人会での講座依頼がいくつも来て、新生わかばにとって嬉しい悲鳴です。7月には、市内のコミセンで最初のコミセン祭り再開となり、行谷シニア体操教室も8月から再開できました。久しぶりに集った時の皆さんの笑顔が、包括業務のエネルギー源です。



● 鎌倉市大船地区地域包括支援センターふれあいの泉

鎌倉市大船地区地域包括支援センターふれあいの泉では、コロナ禍での地域活動として、老人福祉センターでの感染予防に留意した隔月1回開催の「さわやか健康教室」の新設に取り組みました。参加者にもご好評で講師の先生がその後「気分すっきり体操教室」という3回シリーズでの企画でもご協力いただけるようになりました。さらに講師の先生と参加者の方々の信頼関係も強くなり、住民主体で自主サークルとして「元気アップ体操サークル」を新設することができました。

また情報格差に手当てすべく、高齢者向けの広報誌「ふれあい便り」を作成し、最新情報を周知啓発として配布、こちらも表紙や内容にご好評いただき、毎月発行を基本として取り組んでおります。こうした活動を引き続き継続いたします。



認知症ケア推進委員会の取り組み

麗寿会の強みである「認知症ケア」を更に強化する目的で令和元年11月に認知症ケア推進委員会が発足しました。初めの一步として、全職員が認知症を知る事を目的に「認知症サポーター養成講座」を受講し、現在約350名が認知症サポーターとして、やさしい地域づくりに取り組んでいます。

介護の専門職として、私たちの介護を振り返った時、介護者本位のケアを行っていないか、ケアを受ける方々の気持ちを考えて行っていたか等考えながら常に介護を行ってきました。ケアする側、される側が「良かった」と感じられる関係性が重要であり、その関係性を作り上げるために何が必要かと考え、その一つのメソッドとして認知力の向上を目指す「ユマニチュード」を取り入れ実践することにしました。

私達が普段行っているケアを、ただの業務と捉えずに、見る技術、話す技術、触れる技術、立たせる技術を4つの柱として捉え、利用者様を個人として尊重し、出来る能力を見極め、その方に合ったケアの実践が必要と考えました。そして、その行動の抑制も強制も行わない環境作りを行えばその能力を維持し改善できることから、基本的なケアが当たり前に行える、根拠を基にした科学的介護を目指します。

各委員がユマニチュード基礎研修を受講し、5つの事業所で「ユマニチュードの実践目標」を掲げ取り組みました。取り組んだ実践に対し、アンケートや課題など振り返り、次のステップに進んでいます。各事業所毎に勉強会・事例検討会を行う中で、毎月の認知症ケア推進委員会にて、進捗状況等発表し情報共有しています。ユマニチュードを導入し、職員の理解度や意識の変化、取り組み姿勢が徐々にありますが進化してきています。

本年には、日本ユマニチュード学会に加盟し、今後はユマニチュード実践施設承認を目指し取り組み、麗寿会の認知症ケアを内外に発信していきます。

認知症ケア推進委員会



令和3年度経営状況の報告

法人単位 資金収支計算書

第1号第1様式

法人名：社会福祉法人 麗寿会

(自)令和3年4月1日 (至)令和4年3月31日

(単位：円)

勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支				
収入				
介護保険事業収入	1,860,909,000	1,855,129,474	5,779,526	
老人福祉事業収入	76,242,000	76,186,960	55,040	
借入金利息補助金収入	0	0	0	
経常経費寄附金収入	100,000	100,000	0	
受取利息配当金収入	0	4,431	△ 4,431	
その他の収入	9,332,000	18,509,881	△ 9,177,881	
流動資産評価益等による資金増加額	0	0	0	
事業活動収入計(1)	1,946,583,000	1,949,930,746	△ 3,347,746	
支出				
人件費支出	1,317,191,000	1,306,211,085	10,979,915	
事業費支出	254,277,000	261,112,642	△ 6,835,642	
事務費支出	263,605,000	272,798,394	△ 9,193,394	
利用者負担軽減額	1,330,000	1,351,014	△ 21,014	
支払利息支出	7,461,000	8,330,055	△ 869,055	
その他の支出	70,000	286,217	△ 216,217	
流動資産評価損等による資金減少額	0	0	0	
事業活動支出計(2)	1,843,934,000	1,850,089,407	△ 6,155,407	
事業活動資金収支差額(3=1-2)	102,649,000	99,841,339	2,807,661	
施設整備等による収支				
収入				
施設整備等補助金収入	1,800,000	16,655,400	△ 14,855,400	
施設整備等寄附金収入	0	0	0	
設備資金借入金収入	0	0	0	
固定資産売却収入	0	0	0	
その他の施設整備等による収入	0	0	0	
施設整備等収入計(4)	1,800,000	16,655,400	△ 14,855,400	
支出				
設備資金借入金元金償還支出	63,718,000	68,358,000	△ 4,640,000	
固定資産取得支出	14,235,000	29,894,577	△ 15,659,577	
固定資産除却・廃棄支出	0	0	0	
ファイナンス・リース債務の返済支出	2,187,000	2,244,933	△ 57,933	
その他の施設整備等による支出	0	0	0	
施設整備等支出計(5)	80,140,000	100,497,510	△ 20,357,510	
施設整備等資金収支差額(6=4-5)	△ 78,340,000	△ 83,842,110	5,502,110	
その他の活動による収支				
収入				
長期運営資金借入金元金償還寄附金収入	0	0	0	
長期運営資金借入金収入	0	0	0	
長期貸付金回収収入	0	0	0	
投資有価証券売却収入	0	0	0	
積立資産取崩収入	7,679,000	23,295,480	△ 15,616,480	
その他の活動による収入	0	14,400,000	△ 14,400,000	
その他の活動収入計(7)	7,679,000	37,695,480	△ 30,016,480	
支出				
長期運営資金借入金元金償還支出	0	0	0	
長期貸付金支出	0	0	0	
投資有価証券取得支出	0	0	0	
積立資産支出	10,127,000	25,766,000	△ 15,639,000	
その他の活動による支出	5,127,000	10,818,927	△ 5,691,927	
その他の活動支出計(8)	15,254,000	36,584,927	△ 21,330,927	
その他の活動資金収支差額(9=7-8)	△ 7,575,000	1,110,553	△ 8,685,553	
予備費支出(10)	0	0	0	
当期資金収支差額合計(11=3+6+9-10)	16,734,000	17,109,782	△ 375,782	
前期末支払資金残高(12)	0	521,165,241	△ 521,165,241	
当期末支払資金残高(11+12)	16,734,000	538,275,023	△ 521,541,023	

編集後記

私が当法人に着任してから早や10年が経過しようとしています。

介護・福祉の現場はもとより、管理的なことも全く経験なしに着任し、試行錯誤の連続です。「治す」というゴールを目指す医療に対し、「生活を支え続ける」介護は、その背景が異なることを早々に感じました。死ぬまで病気と付き合わざるを得ない慢性期においては、CARE(介護)が中心となり、CURE(治療)に依存することはできない。又、当法人が目指す「寄り添うケア」には、その寄り添い方にマニュアルはなく、その意味でも介護には、医療よりもっと高度な哲学が求められていると言っても過言ではありません。

改めて、視野を広く持ち、ご利用者様が病気を抱えながらも新たな喜びや、生きがい、希望を生み出し、その方が希望する環境で暮らせる最大限のサポートをして参ります。

法人事務長 鳥羽 芳弘



社会福祉法人麗寿会では、行事やイベント、各施設の取り組み等を「facebook」にて随時公開しております。麗寿会WEBページからのリンク、もしくは本誌QRコードからアクセスできますので、ぜひご覧いただければと存じます。